

福祉サービス第三者評価結果

事業所名 橋本りんご保育園

発効：平成28年3月30日（平成31年3月29日まで有効）

公益社団法人神奈川県社会福祉士会

公益社団法人神奈川県社会福祉士会 第三者評価結果

事業所基本事項

| | |
|-------------------|---|
| フリガナ | ハシモトリンゴホイクエン |
| 事業所名 (正式名称を記載) | 橋本りんご保育園 |
| 事業所種別 | 保育所 |
| 事業所住所 最寄駅 | 〒252 - 0143 相模原市緑区橋本 1-12-25 JR 横浜線、JR 相模線、京王相模線 橋本駅下車 徒歩 10 分 |
| 事業所電話番号 | 042-770-1509 |
| 事業所 FAX 番号 | 042-770-1529 |
| 事業所代表者名 | 役職名 園 長 氏 名 武内美樹 |
| 法人名及び 法人代表者名 | 法 人 名 社会福祉法人 菊清会 法人代表者氏名 理事長 伊藤直樹 |
| URL | ringo.hoikuen.to |
| e-mail | |
| 問合せ対応時間 | 8:30 ~17:30 |

事業所の概要 1

| | |
|-------------|---|
| 開設年月日 | 平成 17 年 4 月 1 日 (公設民営) |
| 定員数 | 190 名 |
| 都市計画法上の用途地域 | |
| 建物構造 | 鉄筋コンクリート造 2 階建 |
| 面積 | 敷地面積 (2,112) m ² 延床面積 (1,552) m ² |

事業所の概要 2 (職員の概要)

| | |
|-----------------|--|
| 総職員数 | 44 名 |
| うち、次の職種に該当する職員数 | 園 長 (1 名) 保育士 (32 名) 保健師・看護師 (1 名) 栄養士 (2 名) その他 (事務員 3 名、調理員 5 名) |

事業所の概要 3 (受入・利用可能サービスの概要)

| | | |
|----------|-----------------|-------------------------------|
| 受入年齢 | 生後 8 週目～小学校就学未満 | |
| 延長保育の実施 | 有 ・ 無 | 備考：平日 7:00~20:00、土 7:00~19:00 |
| 休日保育の実施 | 有 ・ 無 | 備考： |
| 一時保育の実施 | 有 ・ 無 | 備考：一時預り保育 6ヶ月から (8:30~17:00) |
| 障害児保育の実施 | 有 ・ 無 | 備考：療育手帳保持 0 名 |
| 病後児保育の実施 | 有 ・ 無 | 備考： |

保育の方針

| |
|--|
| 見守る保育のもと ・ 生命の尊重と心身の健康 ・ 自主と協調、道徳性 ・ 感性と思考力 |
|--|

公益社団法人神奈川県社会福祉士会 第三者評価結果

1. 総合コメント

総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善を要する点）

保育園の概要：

相模原市橋本りんご保育園は、JR 横浜線橋本駅南口から徒歩9分の住宅地の中にある「社会福祉法人菊清会 甲ノ原保育園」の姉妹園として、相模原市立「橋本保育園」を公設民営化して平成17年4月に開園した。社会福祉法人菊清会が指定管理者として運営している。鉄筋コンクリート2階建ての建物では、保育園以外に橋本りんご保育園子育て支援広場（あっぷるるーむ）、一時保育など子育て支援事業なども実施されている。定員は190名で調査実施時点での在籍は204名。内訳は0歳児が20名（ほし8名・かに12名）1歳児31名（ぺんぎん13名・いるか18名）2歳児36名（そら18名・かぜ18名）3・4・5歳児は異年齢交流クラス117名（にじ39名・だいち39名・たいよう39名）で、男性保育士を含む32名の保育士で保育を行っている。保育の方針に「子どもを尊重します」とあり、保育士が主導せず、異年齢の子ども同士の学びを見守りながら保育をしている。運動会は子どもがたのしむためであることを大切に「フィールドデイ」とし、お遊戯会は子どもたち自身がストーリーを考え「プレイデイ」とし、行事は子どもの成長を保護者にお知らせする場としている。「子どもたちがワクワクする空間に」の想いで、クラス編成やコーナー・ゾーン保育など保育環境を工夫している。

優れている点・独自に取り組んでいる点：

1. 異年齢交流

3, 4, 5歳児は1日の生活を異年齢で一緒にすごしている。3, 4, 5歳児のクラスを異年齢という集団にしているのは、一人ひとりの発達、やりたいことを尊重し、社会生活を育てるためである。3歳になれば年上がいて、4歳になると年上と年下がいる、5歳になると年下が多くなるということが自然と理解できて、お互いに協力し合ったり、教えあったりいろいろな思いを知ることができる環境が作られている。社会の最小単位の家庭の中では兄弟がいない子どもも、地域の子どもも集団を経験しない子どもも、異年齢交流の中では互いに学びあっている。

2. 子どもを尊重する保育

社会福祉法人菊清会の創始理念に則り平和な社会を創造する、人とのつながりを大切にする、自立した力を身につけるなど、子どもが自分の意思を持ち、心から楽しめるようにするために、保育士が主導せず見守りながら保育をしている。その保育の視点により、職員のモチベーション向上につながっている。

3. 子どもたちがワクワクする為の環境の整備

採光や換気が良く、建物全体に開放感が持てるよう建物の構造が工夫されている。また、子どもたちが新しい遊びを考え発展させ遊び込む事を大切にし、子どもが興味ある遊びを十分できる環境を用意し、1日では終わらないことでもやりたいことを保障している。具体的には、一定の約束の中で自由に使ってよいコーナーを設定し、子どもが遊びを話し合っ決めて、子どもが作った環境を翌日までそのまま残し、子どもの遊びの環境の保障をしている。また、絵本、ごっこ遊び、ゲーム、ブロック、製作の各コーナー、コーナー間のつながりを捉えたゾーンを設定、その他、絵の具遊びを自由に提供できる場として、常設の「りんごのアトリエ」を設置している。

改善を要する点：

1. 研修報告書の周知

研修内容の周知については、休憩室に報告書を置いて読むよう促しているが、周知を徹底する為に所定の場所に置き、職員全員が読んだ事が確認できるようチェック表などの工夫が必要である。報告書は、研修内容を保育の場面などに活かし、また次年度の研修計画を立案する上で大切であり、今後の工夫と努力が期待される。

| 評価領域ごとの特記事項 | | |
|-------------|-----------------------|--|
| 1 | 人権への配慮 | <p>①保育士としての姿、子どもや保護者への接し方、言葉使いなど業務マニュアル「人権」に記載し、年1回読み合わせをしている。差別禁止については、9月に10年以上のベテラン保育士に、12月には全職員を対象に研修を実施して、改善すべき点や反省点について職員会議やクラス会議で話し合っている。また、「菊清会 望まれる保育者の姿」によって、一人ひとりの職員の具体的に望まれる保育者の姿を示している。外国籍の保護者とは個別に丁寧に対応している。</p> <p>②法人として業務マニュアル「男女共同参画社会に向けて」などを用いて個人情報の保護を図っている。また、児童虐待防止については、私立保育園園長会への参加や関係機関との会議を持ち、情報の共有と防止に努めている。</p> <p>③実習生やボランティア、見学者の受け入れにあたっては、守秘義務及びプライバシー保護について誓約書を作成している。保護者には園日より各クラスのお知らせボードにて見学者受入れ等を伝えている。</p> |
| 2 | 利用者の意思・可能性を尊重した自立生活支援 | <p>①「ほいくえんのしおり」「社会福祉法人菊清会コンセプトブック」を保護者、全職員に配布し、「子どもを尊重します」の保育方針を伝えている。職員は、日頃からコンセプトブックを手元におき理事長・園長との話し合いや勉強会をして日々の保育に活用している。</p> <p>②各クラスの懇談会や個人面談で出された意見については各クラスでまとめ、職員会議で全体に報告し共有している。個人面談で個別対応など配慮が必要な子どもについてはクラスごとに一覧表を作成し、相談内容や育ちについて明記し全体で把握するとともに、関係機関との連携も図っている。</p> <p>③保護者からの意見や要望に対しては「ご意見・ご要望・相談記録カード」を作成して把握に努めている。</p> |
| 3 | サービスマネジメントシステムの確立 | <p>①苦情については、法人として定めた「ご意見申し出窓口」に基づき窓口を明記し、第三者委員2名を設置している。苦情や要望があった場合は、「ご意見窓口の手引き」に基づいて書式を準備し受け付け、その対応を理事会で報告している。</p> <p>②業務マニュアル「薬品・洗剤・消毒薬使用場所・管理状況等」に沿って快適な室内環境を整えている。薬品や備品・日用品は、管理場所と方法を明記し管理している。玩具・砂場などの消毒や除菌、遊具の点検は、担当を設け定期的に管理している。</p> <p>③保健日誌を活用して体調不良児や与薬の管理などを行っている。感染症予防の情報収集や提供手順については業務マニュアル「保健編」等に、ケガなどの対応については業務マニュアル「危険予防編」に明記し実施している。</p> <p>④緊急時の連絡指示・避難等は、業務マニュアル「防災編」に沿って対応し月1回避難訓練を行っている。特に初動について、第1避難所は園庭、第2避難所は中学校である事など、マニュアルに沿って職員会議で周知を図っている。</p> |
| 4 | 地域との交流・連携 | <p>①地域交流と子育て支援について、「橋本りんご保育園子育て支援広場要綱」で定め、参加者の氏名等を把握しながら毎日園庭開放を実施している。また、一時預かり事業を、事業専用の独立した保育室及び園庭を使って実施している。11月に保育ウイークとして、保育士と遊ぶ日、劇団を招いての「赤ずきんちゃん」など、地域の人を対象に呼びかけ実施している。</p> <p>②近くの高齢者デイサービスセンターに年長児が訪問し、高齢者に楽器演奏やダンスを披露し、触れ合いの時を持っている。5歳児は、子ども達が主体的に高齢者に何を見せるか話し合うなど、子ども達の自主性を大切にしている。</p> <p>③近隣の小学校から保育交流として小学4年生が2班に分かれて来園。絵本の読み聞かせやピアノの弾き歌いなど得意な出し物を披露、子どもを</p> |

| | | |
|---|----------------|---|
| | | 抱っこしたり手遊びをして過ごす機会を持っている。小学2年生も町探検として来園している。 |
| 5 | 運営上の透明性の確保と継続性 | ①毎月、各クラスで理念についての自己評価をしている。また、全職員で行事ごとに振り返りを行い次の行事に活かしている。 ②地域の方向けの情報紙「あっぷるるーむだより」を来園の人に配布している。また、ホームページに情報を掲載し、クラスの情報を担任が毎月更新している。 ③保育参加を、1家族年1回、行事以外の日随時受け付けている。親も参加できる行事として、スマイルデイ（親子遠足）やフィールドデイ（運動会）を設定している。プレイデイ（お遊戯会）は保護者参観として実施している。また、全ての年齢で連絡ノートを用いている。乳児は毎日様子を、幼児は最低週1回、必要に応じて様子を書き、保護者とコミュニケーションを図っている。 |
| 6 | 職員の資質向上促進 | ①職員の希望を聞いた上で年度初めに年間研修計画表を作成している。今年は「教育について」をテーマに研修を行っている。 ②1年目、2年目、3年目、中堅前期、中堅後期、ベテラン、幹部ごとに業務目標成果シートを準備し、全職員が個別に自己評価を実施し、年1回園長が面接をし、菊清会「望まれる保育者の姿」をもとに評価を行っている。 ③実習生の受け入れは、業務マニュアル「実習生受け入れについて」に沿って担当としてコーディネーター2名の下で実施している。 |

2. 評価項目に基づく評価の結果

大項目1 保育環境の整備

評価機関が定めた評価項目に添って、調査を行った結果です

| | |
|-----------------------------------|------|
| 大項目1全体（調査確認事項全80事項）を通してのサービスの達成状況 | 100% |
|-----------------------------------|------|

大項目1の内容(概要)

| | | |
|----|---------------------|---|
| 1 | 人権の尊重 | 子どもや保護者に対する態度や言葉遣い 出生や国籍、性差などによる差別の禁止 子どもの虐待予防や早期発見のための地域の関係機関・団体との連携 |
| 2 | プライバシー確保 | プライバシー確保への配慮 個人情報保護の体制整備 |
| 3 | 家庭と保育園との信頼関係の確立 | 家庭との連絡、情報交換の体制 家庭の意向・希望の把握 |
| 4 | 苦情解決システム | 苦情解決の体制整備 |
| 5 | 環境整備 | 温度や湿度等の管理 洗剤等の危険物の管理 おもちゃ、遊具等の管理 |
| 6 | 健康管理(感染症対策・救急救命を含む) | 体調不良児、けがへの対応 感染症への対応 救急事態発生時の医療機関・家族等との連携 |
| 7 | 危機管理(防災・防犯) | 火災や震災等の対応 日常の防災・防犯体制の整備 |
| 8 | 地域の子育て支援 | 地域内の子育てニーズの把握と支援 |
| 9 | 自己評価と情報開示 | 自己点検・改善活動の実施 地域への情報提供、情報開示 見学や保育参観の機会の設定 |
| 10 | 職員研修 | 職員研修の実施 実習生の受入れ、指導 |

大項目2 保育内容の充実

事業所から自己申告された内容について、事実確認を行った結果です

| 項目 | 事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています) | 第三者評価での確認点 |
|---|--|---|
| <p>子どもと保育士とのかかわりにおいて、子どもの情緒の安定をはかることや、順調な発育・発達を促すためにどのような取り組みをしていますか</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 発達過程を独自で作成し、年齢別の会議の中で、子どもの姿の事例を通して話し合いを行っている 2. 自園の子どもの発達表に即して、個人記録を記録している 3. 毎月の研修の中で、子どもの事例を通して職員同士で話し合いをしている | <ol style="list-style-type: none"> 1. 本園独自の発達過程を作り、年齢別の学年会議を、0歳、1歳、2歳、3,4,5歳の幼児に分かれ事例を検討している事を、「発達過程」「0歳児会議記録」で確認した。発達によってのグループなどを通じて発達・発育を促している様子を確認した。 2. 発達過程を捉え子ども毎に発達表を作成している事を、0歳児個人日誌「発達表」、個人記録「平成27年保育経過記録」で確認した。0,1,2歳児が各々発達に応じて2グループに分かれ保育している様子を確認した。 3. 毎月職員研修を行い、法人の「見守る保育の十か条」からテーマを捉えた事例を話し合っている事を、「研修記録」で確認した。 |
| <p>子ども同士のかかわりにおいて、個の違いを認めあうことや他者と自分を大切にすることを心もてるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 異年齢児保育を行っている 2. 毎月の誕生会とは別に、個々の誕生日に誕生日カードの展示と誕生日バッチを付けて、保育園中（子ども同士も）でその子にお祝いの気持ちを持てるようにしている 3. 子ども同士がけんかをして時には、年齢にもよるが自分たちで解決できるような関わりを保育士が行っている | <ol style="list-style-type: none"> 1. 0,1,2歳児が各々発達に応じて2グループに分かれ年齢をまたいで保育している様子を確認した。また3,4,5歳児による異年齢児3クラスの様子を、「だいちぐみ日誌」で確認した。 2. 誕生日を迎えた子どもには盛りつけを工夫するなど特別な給食の提供、また玄関に「誕生日カード」を掲示している様子、「お誕生日バッチ」を工夫している様子を確認した。 3. 一方的な主張をする子が多かったが、次第に相手の気持ちを分かるようになってきた事例を、「法人研修記録」「発達過程『人間関係』」で確認した。プレイデー（お遊戯会）の練習で、子どもが褒め合っている様子を確認した。 |
| <p>子どもと社会とのかかわりにおいて、人に役立つことの喜びを感じたり、人と関わることの楽しさを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者デイサービスセンター訪問 2. 小学生との関わり 3. 消防士のお仕事を知る企画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 近くの高齢者デイサービスセンターに年長児が訪問し、子ども達が話し合いの中で考えた楽器演奏やダンスなどの出し物を披露し、触れ合っている様子を、「だいちぐみ日誌」で確認した。 2. 近隣小学校から2年生が町探検として、4年生が保育交流として来園。4年生は、絵本の読み聞かせやピアノの弾き歌いなど得意な出し物を披露したり、手遊びなどで子どもと触れ合った様子を、小学生から寄せられた「お礼の寄せ書き」「りんご通信」で確認した。 3. 年長児が消防署を訪問し、消防士から話を聞き、消防士の仕事を見せてもらうなど触れ合っている様子を、「にじぐみ記録」で確認した。 |

| 項目 | 事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています) | 第三者評価での確認点 |
|---|--|---|
| <p>生活や遊びなどを通して、言葉のやりとりを楽しめるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 日々の保育の中での、絵本や紙芝居を通した言葉のやり取り 2. ゾーン保育という環境 3. 朝のお集まり | <ol style="list-style-type: none"> 1. 「もりのえほん」を読み聞かせる中で、言葉のやりとりや絵本の台詞を真似して楽しんでいる様子を、「2歳児の日記」で確認した。プレイデイ（お遊戯会）の出し物の練習で、言葉のやりとりの様子を確認した。 2. 今までのコーナー保育が狭い意味でとらえがちだったが、自発的、意欲的に関われるようゾーンとして広く捉え取り組んでいる。絵本ゾーンで絵本の再現遊びで盛り上がっている様子を、「2歳児日記」で確認した。コーナーを広く捉えて絵本ゾーンとして保育している様子を確認した。 3. 「朝のお集り（朝の会）」で、子ども達が一日の見通しがもてるよう、クラス単位で当番が人数報告、給食当番、帰りの集まりなどを伝えている様子を、「2歳児の日記」で確認した。 |

| 項目 | 事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています) | 第三者評価での確認点 |
|--|---|---|
| <p>生活や遊びなどを通して、話すこと・聞くことが楽しめることや言葉の感覚が豊かになること、自分の伝えたいことが相手に伝わる喜びを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 行事に向けての子ども同士の話し合い 2. 異年齢児保育 3. お当番の人数報告（事務所・給食室） | <ol style="list-style-type: none"> 1. フィールドデイ（運動会）の出し物を子ども同士で話し合い、意見を発表する中で友達の話聞く事の大切さに気付く様子を、「だいちぐみの記録」で確認した。プレイデイ（お遊戯会）の練習で、子ども達が練習の感想を述べている様子を確認した。 2. 3, 4, 5 歳児によるクラスで行事に向けての話し合っている様子を、「だいちぐみの記録」で確認した。昼食において、年長児のいる前で保育士におかわりする分量をうまく伝えられ、笑顔が出る様子を確認した。 3. 当番活動の事務所などへの人数報告で、伝える喜びを味わっている様子を、「にじぐみ記録」で確認した。当番活動が1日のスケジュールに位置づけられている事を「幼児クラスデイリープログラムした」で確認。 |
| <p>生活や遊びなどを通して、楽しんで表現することができるようにすることや表現したい気持ちを育むためにどのような取り組みをしていますか</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. りんごのアトリエ 2. ゾーン保育（楽器・制作・生活再現） 3. 園庭遊び中に、ダンスが得意な職員が子どもと一緒にダンスを踊っている | <ol style="list-style-type: none"> 1. 絵の具遊びを自由にできる場として「りんごのアトリエ」を設置し、何時でも使用できるよう絵の具などの道具が準備されている様子、また保育士が連携し保育している様子を、「アトリエ引継ぎノート」で確認した。 2. 保育室を「遊びの空間」と「生活の空間」に分け、「遊びの空間」の製作ゾーンでは粘土やブロック遊び、また他のゾーンとのつながりも大切にしている。ダンスゾーンと表現遊びのゾーンを作り保育している様子を、「だいちぐみ日記」で確認した。 3. ダンスが得意な保育士と子どもと一緒に園庭でダンスを踊る様子を、「かぜぐみ日記」で確認した。プレイデイ（お遊戯会）の練習で、表現する気持ちを育んでいる事を確認した。 |

| 項目 | 事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています) | 第三者評価での確認点 |
|---|--|--|
| <p>生活や遊びなどを通して、自発的に表現する意欲を育むことやみんなと一緒に表現する喜びを味わえるようにすること、創造的に表現することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. プレイデイ (行事) 2. ゾーン保育 (制作・楽器・生活再現) 3. りんごのアトリエ | <ol style="list-style-type: none"> 1. プレイデイ (お遊戯会) の出し物は、乳児は普段の様子や絵本からの題材、幼児は子どもと話し合いながら決めている。準備の過程で子どもは成長するので、その様子を保護者にも伝えている事を「かぜぐみ日誌」で確認した。 2. 表現遊びなどのゾーンを捉えた遊びの中で、年長児が踊っている様子を見て自分もやりたいと思い、その気持ちを捉えて年長児が教えている様子を、「だいちぐみ日誌」で確認した。 3. いつでも好きな時に来て自由に絵を描く事が楽しめるように「りんごのアトリエ」を設置した目的など、「りんごのアトリエ」で確認した。りんごのアトリエに、いつでも絵を描けるように絵の具などの準備を確認した。 |
| <p>生活や遊びなどを通して、聞く・見るなど感覚の働きを豊かにすることや身体を動かす楽しさを味わうこと、身近なものに対する興味や関心を引き出すためにどのような取り組みをしていますか</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 日々の散歩や戸外遊び 2. 絵本の読み聞かせ 3. 0・1歳児のプレイルーム設置 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 散歩のルート of 危険箇所や公園毎の遊具が把握できている事を、「散歩マップ」で確認した。散歩時に木々の葉に関心をよせている様子を「うみぐみ日誌」で確認した。 2. 絵本「おーいカバくん」の内容をアレンジして自作した「お着替え編」の読み聞かせの後に、ズボンを自分でおろしてトイレに行く等の様子を、「かぜぐみ日誌」で確認した。 3. 共用スペースとしてプレイルームを広く設置した事により、穏やかに過ごす事ができるようになり、また1歳児の様子を見て0歳児の動きが活発になった様子を「プレイルーム日記」「0,1歳保育日記」で確認した。 |
| <p>生活や遊びなどを通して、身近な様々なものに対する探索意欲を満足させることや社会や自然の事象や、動植物への興味や関心をもてるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. モルモット当番やクラスでの昆虫等の飼育 2. 戸外活動 (散歩等) 3. 野菜等の栽培とそれを食べる事 | <ol style="list-style-type: none"> 1. カブトムシの飼育の様子を、「だいちぐみ日誌」で確認した。また、昨年動物園からもらいうけたモルモットを子どもが膝に乗せ、「もるちゃんのおとうばん」として櫛で毛をとかしている様子を確認した。 2. 0,1歳児は発達により歩行程度などに差がある。1歳児の中には2歳児と一緒に散歩に行く園児もいる。散歩で子ども達が木々の葉に関心をよせている様子を「うみぐみ日誌」で確認した。 3. 年長児が、ホームセンターに苗を買いに行った様子を「たいようぐみ日誌」で、園内の畑でトマトやキュウリなど栽培した野菜を分け合って食べている様子を「だいちぐみ日誌」で確認した。 |
| <p>自分から食べようとする意欲を育んだり、排泄をしようとする意欲を育むためにどのような取り組みをしていますか</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. ランチルーム 2. 人・時間・量の選択 (幼児クラス) 3. 排泄の個々への自立の促し (排泄チェック表) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 常設のランチスペースで、楽しく食べる事を第一に保育士が連携しながら保育している様子を「ランチルーム引継ぎノート」で確認した。昼食で、保育士が声掛けしながら子どものおかわりに対応している様子を確認した。 2. 自分で決めた時間に友達とランチルームで食事ができる。おかわりの時に「前回食べきれなかったから、今回はこの位にしない？」などやりとりしている様子を、「ランチルーム引継ぎノート」で確認した。食べられる量を |

| 項目 | 事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています) | 第三者評価での確認点 |
|--|---|--|
| | | 自問自答しおかわりする様子を確認した。 3.0歳から「オマルに座ってみよう」とまず座る事から始めるので、トイレに行くのが嫌という園児はいない。トイレか紙パンツか排泄した様子の記録を、「1歳排泄表」で確認した。友だちがトイレにできた事を知って頑張る様子を、「保育経過記録」で確認した。 |
| 身の回りのことを自分でしようとする意欲を育むことや基本的な生活習慣を身につけること、食事や休息の大切さを理解することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか | 1. 午睡や食事時間の自己決定（幼児クラス） 2. 食事の量の自己決定 3. 異年齢児保育 | 1. 自分で決めた時刻に、時計を見ながらランチルームに行く様子を「たいようぐみ5歳児記録」で確認した。子ども達が自分で決めた食事時刻から30分間の昼食時間を時計を見ながら確認し、食事やおかわりをしている様子を確認した。 2. 子どもがおかわりの量などを自分で決め、おかわりの量が多すぎて食べきれなかった事や、全て食べる事が出来た様子などを、「ランチルーム引継ぎノート」で確認した。おかわりの量を自分で保育士に伝え、おかわりしている様子を確認した。 3. 異年齢児保育として「見て・まねて・学ぶ」事を大切に、年長児の真似をして自分で着替えた様子を「にじぐみ3歳記録」で確認した。3,4,5歳児が1つのクラスで保育され、年長児を真似し、また年長児が遊ぶのを手伝っている様子を確認した。 |

大項目3 保育園の特徴

事業所から自己申告された内容について、事実確認を行った結果です

| 項目 | 事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています) | 第三者評価での確認点 |
|---|--|--|
| <p>子どもの豊かな心と身体をはぐくむための特徴的な取り組みについて説明してください</p> | <p>1.異年齢児保育 2.チーム保育 3.選択性保育</p> | <p>1.年長児が園庭にあるツリーハウスを自分で上る様子を憧れ、自分もやってみようとの気持ちで育つ様子を、「たいようぐみ日記」で確認した。幼児クラスの子ども達が、園庭にあるツリーハウスで遊ぶ様子を確認した。 2.法人の「見守る保育10か条」にチーム保育がうたわれており、職員研修でチーム保育をテーマに事例検討を行った事を、「研修記録」で確認した。ランチルームで、保育士がチームとして連携している様子を確認した。 3.子どもが自分で決める事を大切に、様々な場面で選べる環境を整えている。敬老の日のはがき作りで、用意された3つの箱から選んで制作している様子を、「たいようぐみ日誌」で確認した。遊びを選べるように複数のゾーンを工夫したり、昼食の時刻や食べる友達が自分で決めるなどの保育の様子を確認した。</p> |
| <p>保育環境に特別な配慮を必要とする子ども(長時間保育、障害児保育、乳児保育、外国籍園児)の保育に関しての特徴的な取り組みについて説明してください</p> | <p>1.習熟度別保育 2.0・1歳児の発達別グループ保育 3.18:30までの年齢別担当職員の保育</p> | <p>1.発達にあった習熟度別保育として、できる事から着実に経験を積むようにしている。散歩に行くチームと、歩行が安定しておらずテラスで過ごすチームに分かれて保育している様子を、「0,1歳記録」で確認した。 2.0歳児はほしグループとかにグループに、1歳児はぺんぎんグループといるかグループに分けるなど、発達を捉えたグループ分けを、「うみぐみ日誌」で確認した。0,1歳児をそれぞれ発達別のグループで保育している様子を確認した。 3.延長保育では担任保育士が残って保育にあたり、18時半以降は0,1歳児と2,3,4,5歳児の2グループで各々保育士1名が20時まで残り保育を行っている事を「勤務表」で確認した。何時に誰が迎えに来たか記録し保育している様子を、「延長保育日報」で確認した。</p> |
| <p>健康管理に特別な配慮を必要とする子ども(アレルギー疾患をもつ園児、乳児保育、病後時保育など)の保育に関しての特徴的な取り組み(アレルギー食対応、個別食、離乳食など)について説明してください</p> | <p>1.離乳食(S2~S7) 2.アレルギー食の対応 3.病後の離乳食の変更</p> | <p>1.すでに移行食の乳児が多く、離乳食は現在3名だけである。離乳食開始にあたっては、入園当初の「チェック表」、また毎日給食室に申請している「離乳食申請ボード」を確認した。離乳食の食べ具合を記録している事を、「0歳児個人日誌」で、離乳食献立を「4月の献立表離乳食ステップ2~7」で確認した。 2.アレルギー食(除去食)対象児は、除去食でも通常食で対応できる日であっても、他児とは異なるピンク色のトレーで区別し、子どもが直接給食室に取りに行っている様子を確認した。 3.病後の給食変更は離乳食にのみ実施している。体調不良の為に一時的にステップを下げた時は、理由を記録し、体調が元に戻ったら</p> |

| 項目 | 事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています) | 第三者評価での確認点 |
|---------------------------------------|---|--|
| | | 元のステップに戻している様子を、「〇〇保育経過記録」で確認した。 |
| 食に関する特徴的な取り組みについて説明してください | 1. ランチルームでのセミバイキング方式 2. アレルゲン食材のできる限りの不使用 3. 野菜等の栽培・調理保育 | 1. 自分で決めた食事時刻にランチルームに来て、保育士や当番の子どもとやりとりしながら自分で食べられる量を決める様子を確認した。また、30分間の昼食時間を時計を見ながら確認し、食事やおかわりをしている様子を確認した。 2. 小麦粉と卵を除去したアレルギー除去食の提供、及びそれ以外のアレルゲンについては給食に使用していない様子を、「献立表」「懇談会資料」で確認した。 3. 調理保育は、年3回学年別に行っている。5歳児はホットケーキ作りや鍋物、カレーなどを実施している様子を「5歳児日誌」で確認した。年間を通じて調理保育が計画されている事を、「食育年間予定」で確認した。 |
| 家庭とのコミュニケーションに関する特徴的な取り組みについて説明してください | 1. 全園児の保護者対象の保育参加 2. 全園児の個人の連絡ノート 3. 親も参加できる行事（夕涼み会のお父さんバンド等） | 1. 保育参加は、年間に1家族1回、行事以外の日に随時受け付けている。保育参加受け付け状況を3,4,5歳児の「保育参加予定表」で確認した。訪問調査当日に保護者が保育参加している様子を確認した。 2. 全ての年齢で連絡ノートを用いている。乳児は毎日、幼児は最低週1回、必要に応じて書き足し様子を伝えている。保護者とコミュニケーションを図っている各年齢の連絡ノートを確認した。 3. 親も参加できるスマイルデイ（親子遠足）、夕涼み会、フィールドデイ（運動会）、プレイデイ（お遊戯会）などの行事を「年間予定表」で確認した。プレイデイ（お遊戯会）の準備の様子を写真を交え掲示してある事を確認した。 |
| 地域の子育て支援に関する特徴的な取り組みについて説明してください | 1. 月～金の毎日の園庭開放 2. 一時預かりの独立している保育室と庭 3. 地域の児童館への職員の派遣（年6回程度） | 1. 参加する保護者に、誰が参加したか分かるように名前を書いてもらい園庭開放を実施している様子を、「子育て支援室日誌」で確認した。園庭を開放し親子が集まっている様子を確認した。 2. 毎日子どもが来る訳ではないので、保育士に馴染めるかどうかも含め通常の保育とは別の空間が必要と考え、独立した保育室及び園庭を使って実施している様子を、「預かり日誌」で確認した。 3. 地域のこどもセンターで開催の乳幼児及び保護者を対象とした「キッズタイム」での指導に、年6回保育士1名を派遣している。実施の概要を「橋本りんご保育園子育て広場要綱」で確認した。 |

3. 利用者への調査

～ 保護者アンケート調査を実施した結果です ～

(1) 調査の状況

| | |
|-------------|--|
| 調査期間 | 平成 27 年 10 月 15 日 ～ 平成 27 年 11 月 25 日 |
| 調査方法 | 所定の調査票（アンケート票）により実施した。 |
| 調査対象者の匿名化 | 調査は無記名で行い、調査結果から回答について個人が特定化される場合は、評価機関で匿名化を図った。 |
| アンケート調査票の配布 | 対象者には事業所を經由して調査票を配布した。 |
| アンケート調査票の回収 | 記入済みの調査票は対象者から直接、評価機関に郵送された。 |
| 回収の状況 | 調査票配布数 114 通 : 返送通数 84 通 : 回収率 74% |

(2) 調査結果の傾向

◆アンケート調査全体の傾向

- 園の保育方針、保育内容について、「知っている」95.2%、知らないが3.6%となっている。
- お子さんの個別の事情（アレルギー・家庭の事情）について、「相談しやすい」65.5%、「やや相談しにくい」「相談しにくい」合わせて4.8%となっている。
- 園との十分な意見交換について、「十分である」88.1%に対し、「やや不十分である」10.7%、「不十分である」0%となっている。
- 不審者侵入防止などの防犯対策について、「安心が感じられる」76.2%に対し、「少し心配がある」22.6%、「心配がある」1.2%となっている。
- 事故や災害時の連絡体制について、「安心が感じられる」90.5%に対し、「少し心配がある」6%、「心配がある」1.2%となっている。
- 園の良い点の自由記述では、主に「保育環境」「異年齢交流」「職員の対応」などが挙げられている。「園庭、広場、周辺含め外遊びがのびのびできる」「異年齢保育なので、年上の子を見て学び、下の子にやさしくなれる。特に一人っ子にはとても良い環境」「先生方が明るく、日々の子どもの生活を楽しくしようとしてくださっているのを感じます」「保護者の負担が少なく、助かっています」「その子に合わせて無理強いせず見守ってくれる」などがあがっていた。
- 改善して欲しい点の自由記述では、主に「職員体制」「駐車場」「病気の対応」などが挙げられている。「屋外で遊ぶ時の職員の配置数が少ないと思う」「駐車場待ちが多い」「感染症の発生について、もっとわかりやすいところに表示してほしい」などがあがっていた。
- その他の自由記述では、「特に不満はありません。行事ごとの先生たちの一生懸命さが伝わってきます」「感染症対策はもうすこししっかり学んでほしい」「行事は親も一緒に楽しめて普段の様子もわかり安心できます。子どもの成長を感じられる機会となります」という意見があった。